

*Onychium japonicum*—see from right to left in B and D, from left to right in C and E), while others only slightly change (Fig. 4.—A. *Adiantum monochlamys*, and F. *Pteris wallichiana*).

○ヌカボの学名に一言 (水島正美) Masami MIZUSHIMA: A comment on the Latin name of “Nukabo”

イネ科のヌカボは全国の平地に分布する雑草で、ヤマヌカボと区別しにくい個体に遭遇することがある。1968 年に館岡博士がヌカボをヤマヌカボの亜種とする説を発表された。即ち、ヌカボが北米西部系植物だとする *Agrostis exarata* Trin. var. *Nukabo* (Ohwi) T. Koyama を採らず、欧亜大陸系の *A. clavata* Trin. (ヤマヌカボ) の var. *Nukabo* Ohwi に賛成し、其の級位を変更するというものである。小山鉄夫博士の記述 (本誌 37: 232; 原色日本植物図鑑 (下) 350 頁) にはヌカボ、ヤマヌカボの小穂に就いて正反対になっているようであるし、筆者もヌカボを *A. clavata* の方に近い植物と見る点では館岡博士に賛意を表する。然し亜種の級位とするならば、*Matsumurae* という epithet は使えない。大井博士のヌカボ属の論文 (植物学雑誌 55 巻 355-356 頁) で分るように、東大所蔵の *A. Matsumurae* Hack. ex Matsumura, Bot. Mag. Tokyo 11: (445). 1897 は裸名であると共にヌカボ、ヤマヌカボの双方を含んでいる。例えば“東京, 1897 年 6 月 13 日, 松村任三 (大久保二郎?)” は *A. Matsumurae* Hack. sp. nov. と松村先生の手記がある (2 枚) のに、それぞれヌカボ、ヤマヌカボである。また 1897 年以前に採集された標本は両者合して 17 点あるが、ヌカボに相違ないと同定出来るのは 7 点である。従ってヌカボの学名に先取権を持ち得るのは *A. clavata* var. *Nukabo* Ohwi しかない。筆者はヌカボをヤマヌカボの低地生の異形質集団と考えるので、変種説を採る。亜種説を採る学者は上述の学名の新組合せを有効に出版し、適法名とされたい。

The name, *Agrostis clavata* Trin. subsp. *matsumurae* (Hack. ex Honda) Tateoka (1968) is illegitimate, because the basionym, *A. Matsumurae* Hackel ex Matsumura, Bot. Mag. Tokyo 11: (445). 1897 is a *nomen nudum*. Honda (1930) in his *Monographia Poacearum Japonicarum* 191, did not provide description for Hackel's binomial. So the next available epithet effectively published is *A. clavata* var. *Nukabo* Ohwi, Bot. Mag. Tokyo 55: 356. 1941. Since the writer considers “Nukabo” to be a lowland variety of *A. clavata*, a worker desiring to recognize it at the subspecies rank has a room for a new combination.

(東京都立大 牧野標本館)